

# Joe の豪ドル道場

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髄に迫る—

<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえるとともに、豪ドルに

対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)



(豪ドル円日足)



(米ドル円日足)



(ユーロ米ドル日足)



## <長期ビジョン>

通貨ペア	半年後の相場予想	予想変更日	変更前予想値
	0.7300	3 Nov 2008	
	76.65	3 Nov 2008	
	105.00	3 Nov 2008	
	1.3500	3 Nov 2008	

<最近の気になる出来事、発言>

出来事	<ul style="list-style-type: none"><li>・ RBA 豪ドル買い介入 10月24日、27日、28日 0.6100 近辺</li><li>・ 日銀利下げ 0.50%→0.30%</li><li>・ 株価回復 (ダウ 8175 ドル→9325 ドル)</li></ul>
発言	<ul style="list-style-type: none"><li>・ RBA、DeBelle 副総裁－為替市場での介入の目的は流動性供給であって、特定の豪ドルレベルを防衛するためではない。</li><li>・ RBA バテリノ副総裁－インフレは利下げを制限するかもしれない。</li></ul>

<キーワード>

株安、円高・ドル高、米大統領選挙、欧州景況悪化、新興国景況悪化、RBA 豪ドル買い介入、日銀介入

<今後の注目イベント>

11月4日(火) 米大統領選挙、RBA 理事会 (0.5%利下げ予想) 5日(水) APEC 財務相会議、6日(木) BOE、ECB 理事会 (ともに 0.5%利下げ予想)、7日(金) 米国雇用統計、15日(土) 緊急金融サミット

## <豪ドル相場解剖>

(大局) 2001年から始まった上昇トレンドが今年7月で終わり(98セント台、104円台)、急激な下降トレンドに転換し、60セント、55円台(史上安値)を示現後小反発。当面の大底は打ったと思われるが、上昇トレンド回復と考えるのは時期尚早。上昇トレンド転換前のコンソリデーション期間入りか。もう一段反発のきっかけは11月4日の米大統領選でオバマ勝利し、米経済の目先一新。豪ドル相場の根本転換は米経済の回復にあり、来年になってから。

向う半年の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.5700-0.7700、豪ドル円 53.00-75.00

(小局) 先々週、先週と“最後の円キャリートレードの投げ”と“投機的な豪ドル円の売り仕掛け”爆発し0.6009、55.20円まで下落後、先週はRBA介入、FOMCでの利下げ、株価の戻りを背景に一時69セント近辺、68円台までショートカバーで戻ったが、調整一巡後再び65セント台、63円台に反落するなど依然として不安定。RBAの介入点61セント近辺(55円台)が取り敢えずのフロアとなろうが、70セント近辺、70円近辺では戻り売り圧力も高まろう。

向う1週間の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.6300-0.6900、豪ドル円 63.00-69.00

<豪ドル売り・買い指数(前回の結果—当たり、はずれ—を踏まえて毎回レビュー訂正)>

豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10(最弱)から+10(最強)まで 独自の手法で数値化したもの。項目数は適宜増減する。今回は10項目。理論上総合判断では最

強を+100、最弱を-100となる。各要因は相関（または逆相関）関係があるが（たとえば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因（-）となるが逆に市場は売りポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因（+）となるなど）**客観情勢の数値化が主眼。**

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
ファンダメンタルズ (経済・政治)	Good－PPI、CPIが予想より高水準、財政黒字 Bad－消費低迷、雇用市場懸念	+2	
市場センチメント	豪ドル安値警戒感あるが、まだベアセンチメント	-4	
推定市場ポジション (含むキャリートレード、IMM ポジションなどから判断)	IMM 豪ドル売りポジションは縮小傾向。円キャリートレード解消進んだが、豪ドル売りポジションもかなり減少	+2	
商品相場	依然軟調	-6	
金利	金利先安感強い（11月4日0.5%利下げ観測、年内5.0%まで低下観測） <u>がかなり織り込み済み。</u> 欧州利下げ観測	-3	
需給	当地輸出の豪ドル買い。月末のヘッジファンド豪ドル売り需要も終了	+3	
テクニカル（チャート）	移動平均線（長短期）依然下向き。RSI48%台で売られ過ぎかなり解消。依然ポリンジャバンド下限（0.6126,57.59円）への戻り圧力強い	-3	
その他	RBA61セント以下で再介入、ドル円90円以下で介入の可能性 株価－大底から反発地合 米大統領選挙のオバマ勝利予想	+3 +4 +3	
<b>総合判断</b>	<b>大きな偏り無し</b>	<b>+1</b>	

#### <結論、今後の戦略>

依然として株式市場との連動性の強い相場が継続しよう。先々週、先週の下攻めで当面のボトムを打った可能性大。今週は基本的に“下がったら買い”で行きたい。下値ターゲット63セント台、65円割れ。一方70セント、70円方向に上昇したときには、一度売りポジションに振っ

でも良いだろう。ただ日中は引き続き“よく動くこと間違いなし”。また“不安定な動きであること間違いなし”。50ポイント-100ポイント抜く作戦よりは10ポイント、20ポイントを小まめに抜く回数で稼ごう。その方がリスクも低下。運が良ければ大きな動きにもスナリついて行ける。

#### <懺悔の部屋>—過去の失敗から学ぶもの—

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

#### (その一) 相場にのめり込まない。しかしやる時にはとことんやる。(心理面)

相場は土曜・日曜以外5日間、24時間存在する。したがって、トレーディング環境が過去に比べて数段に良化した今日、いつでも相場にアクセス可能。ともすれば調子のいいときは、“自分が相場を動かしている”などという錯覚に陥り、どっぷりと相場にのめりこみがち。しかし人間の気力、体力はそう長くは続かない。長時間のめり込むといつの間にか歯車が狂いだし、虎の子を吐き出す、なんてことに。

相場の究極は“流水行雲”一の境地。気楽に成り行き任せ。“相場について行く”の心構え。

しかし、いざ動き出したら肝(キモ)を入れてとことん“くらいつく根性”も必要。気楽と根性のバランス感覚。

#### <ここで一息>

初めまして JUNAX CAPITA, AT FUND, Sydney の津田ジョーと申します。今日から週3回メルマガを始めさせていただきます。宜しくお願いします。豪州はこれから夏。今年もうす紫色のジャカラダの花が咲き始めました。(下写真) まあ日本の桜のようなものですが、これが咲くと“夏が来たかぁ”となります。紫色は気違いの色(?)とも言いますが、これからどんどん温度があがり、その辺一帯が紫色になり始めると OZ もクレージーな気分になるようです。(危ない、危ない) また時々仕事以外の情報も御提供しようと思います。

